

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	84人	算数	84人	理科	84人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	107人	算数	107人	理科	107人
------	----	------	----	------	----	------

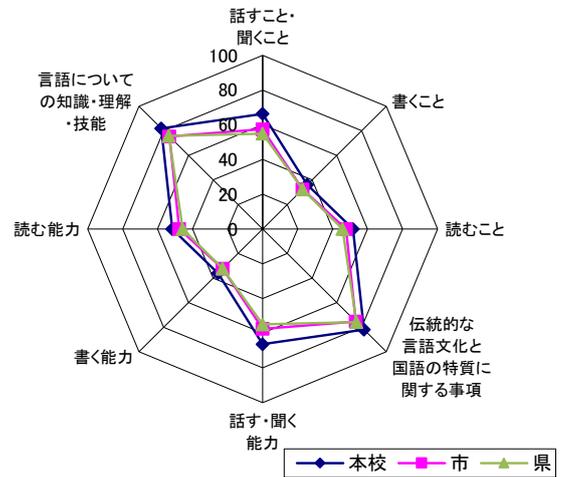
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.3	57.5	54.9
	書くこと	36.1	32.3	32.3
	読むこと	51.6	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.9	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	66.3	57.5	54.9
	書く能力	36.1	32.3	32.3
	読む能力	51.6	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	81.9	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

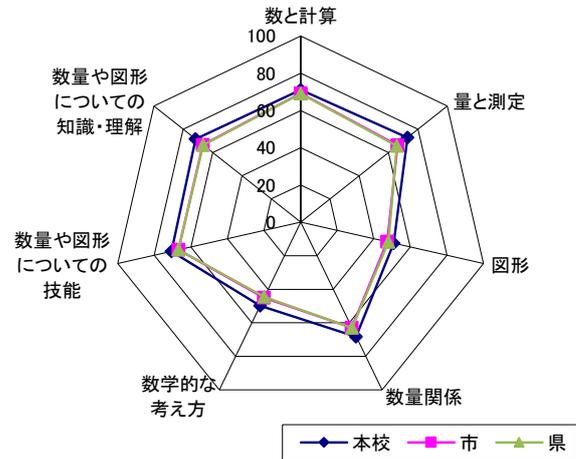
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は、市の平均を8.8ポイント、県の平均を11.4ポイント上回っている。 ●「話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる」設問の正答率が、47.6%であった。市や県の正答率と比較すると大幅に上回ってはいるが、課題があると言える。	・大切なことを落とさずに聞くために、話を聞かときの姿勢や気を付けるべきことについて繰り返し指導を行ってきたい。 ・日頃の学習にペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べる機会を増やしていきたい。 ・会話科と関連付けながら、自分の考えを人に伝える練習を取り入れていきたい。
書くこと	○本校の正答率は、県と市の平均を3.8ポイント上回っている。 ●本校の正答率は36.1%と県と市の平均を上回っているものの、課題があると言える。また、無答率も県や市の平均をおおむね5ポイント以上下回るものの、課題があると言える。	・学習の中で、自分の意見をノートに書く活動を多く取り入れたり、宿題に日記を取り入れたりすることで、書くことへの抵抗感を少しずつ減らしていきたい。 ・個人やグループによる新聞作りや、行事に関する感想文など、目的や条件に合わせた文章を書く機会を増やし、必要な事柄を抜かさずに、順序立てて書けるよう指導していきたい。
読むこと	○本校の正答率は、県の平均を5.9ポイント、市の平均を3.9ポイント上回っている。 ●文学作品の内容理解は、説明的文章の内容理解に比べて16.6ポイント下回っている。 ●「叙述や会話文をもとに、登場人物の性格を捉える」設問の正答率が14.3%と課題が見られる。	・読書をする際に、好きなジャンルの物だけでなく、様々な本に親しむことができるよう声かけをしたしていきたい。また、教師からお薦めの本を紹介することで、物語を読むことに興味をもち、会話文や叙述も意識しながらじっくり読めるような場を増やしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の正答率は、県の平均を6.1ポイント、市の平均を6.6ポイント上回っている。 ○漢字の読みの設問では正答率が95%を超える問題が3分の2あり、知識の定着がうかがえる。 ●会話文での「」の使い方の設問では、県や市の平均を5ポイント以上上回っているものの、正答率が65.5%と課題があると言える。	・日々の学習の中でも、既習漢字はきちんと使うよう指導をすることで、使える知識としての定着を図りたい。 ・ローマ字の書き方や国語辞典の使い方など、触れる機会が少ないものは、他教科との連携を図りながら、復習できるような支援をしていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	69.2	69.1
	量と測定	72.9	66.1	65.6
	図形	50.9	47.4	48.0
	数量関係	68.3	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	49.8	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	70.6	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	71.6	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

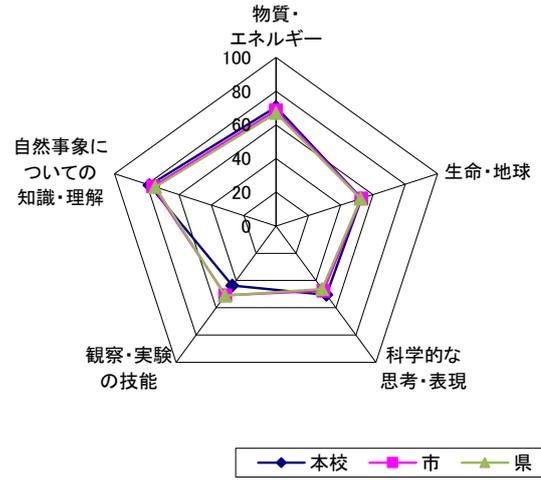
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本校の正答率は、県の平均を2.0ポイント、市の平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>○数直線上の数値を読み取る設問の正答率は91.7%であり、県と市の平均を7ポイント以上上回っている。</p> <p>●加法・乗法の正答率が市や県の平均を下回っており、定着度に個人的な差が見られる。</p>	<p>・学習した内容はほぼ身に付いていると思われるが、繰り上がりのあるたし算や3けた×2けたのかけ算の定着が十分でない児童がいるので、今後も繰り返し復習させ、定着を図りたい。</p>
量と測定	<p>○本校の正答率は、県の平均を7.3ポイント、市の平均を6.8ポイント上回っている。</p> <p>○電車の発車時刻を求める設問の正答率は、県の平均を16.4ポイント、市の平均を14.2ポイント上回っている。</p> <p>●身近にあるものの重さを推測する設問では、正答率が市や県を上回っているものの、定着に課題がみられた。</p>	<p>・日常生活の具体的場面における量感と、学習で習い覚える知識が結びつくような、知識を生活に生かすことができる場を、算数に限らず様々な学習場面において設けていきたい。</p>
図形	<p>○本校の正答率は、県の平均を2.9ポイント、市の平均を3.5ポイント上回っている。</p> <p>○全体の長さから半径を導き出す設問では正答率が県と市の平均を10ポイント近く上回っていた。</p> <p>●正三角形の作図の設問の正答率については、市や県の平均を5ポイント以上下回った。</p>	<p>・4年生で学習する垂直や平行の指導の際、正三角形の定義を振り返ったり、作図したりして、学習内容を確認、習熟を図りたい。</p>
数量関係	<p>○本校の正答率は、県の平均を5.2ポイント、市の平均を5.4ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフの1目盛の大きさを読み取る設問では正答率が県を13.3ポイント、市を14.8ポイント上回っている。</p> <p>●表やグラフの内容を読み取る設問では、正答率が50%前後となり、課題が見られる。</p>	<p>・社会科や理科等、算数の時間以外にも表やグラフを読み取る学習を取り入れていきたい。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを交流することで多面的な考え方を知る機会を設定していきたい。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.6	68.6	66.9
	生命・地球	52.9	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	50.5	47.4	46.2
	観察・実験の技能	43.8	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	78.4	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○本校の正答率は、県の平均を3.7ポイント、市の平均を2.0ポイント上回っている。</p> <p>○「物と重さ」「風やゴムの働き」「光の性質」では、県や市の平均よりおおむね5ポイント以上高く、全体的に学習した知識の定着がうかがえる。</p> <p>●「電気の通り道」の回路を作る際の安全なつなぎ方を問う設問では正答率が53.3%であり、課題があると言える。</p>	<p>・学習内容が定着していない部分に関して、今後、練習問題等を活用し内容の定着を図りたい。</p> <p>・学習活動において、実験や体験的な活動を増やすことで、予想する、結果をまとめる、考察するというサイクルを定着させ、更に学習内容への理解を深めさせたい。</p>
生命・地球	<p>○本校の正答率は、県や市の平均とほぼ同等であった。</p> <p>○「身近な自然の観察」の本校の正答率は、県を6.7ポイント、市を4.7ポイント上回っている。</p> <p>●方位磁針や温度計の適切な操作方法についての設問では、正答率が40%を下回り、理解が不十分であったと言える。</p> <p>●観察記録をもとに昆虫を選択し、選んだ理由を考えたり、昆虫の成虫が、食べ物がない場所にいる理由を考えたりする記述式の設問では県や市の平均正答率をおおむね5ポイント下回り、課題があると言える。</p>	<p>・今後も日常の自然現象を積極的に話題にしたり、植物や動物の飼育を推奨したりすることで、身の回りの自然に対する関心の高さを持続させていきたい。</p> <p>・観測や測定で使用する用具の使い方については、丁寧に、継続的に指導し、誰もが実際にやってみる経験を通して、正しい知識を身に付けさせていきたい。</p> <p>・理科での追究の仕方を確認し、根拠に基づいた推測や理由を表現する力を育てるため、自分の言葉で書く時間を多く取り入れていきたい。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家族とのかかわりに関する項目では、「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家の人としよう来のことについて話すことがある」「家の人と学習について話をしている」が、市や県の肯定的回答率を4ポイント以上上回っている。家族間でのコミュニケーションが取れている様子がうかがえる。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」「ものごとをさい後までやりとげて、うれしかったことがある」「毎日の生活が充実していると感じている」では、肯定的回答の割合が9割を超え、自己肯定感の高さがうかがえる。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」「先生は学習のことについてほめてくれる」では、市や県より5ポイント以上上回っており、教員との人間関係について肯定的割合が高い。今後も、児童一人一人のよさを認め、励ましながら学びへの意欲につなげていく。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「授業を集中して受けている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」なども、肯定的回答の割合が9割を超えており、主体的に学習に取り組む態度を育む要因になっている。

●家庭での児童と保護者のコミュニケーションは、学習について話題となっているが、学校での様子や日常生活について話をする機会が少ないことがわかる。今後も、学年だより等を使って学校生活についての情報を発信していくと同時に、保護者と児童が学校生活を話題につなげていけるように呼びかけていきたい。

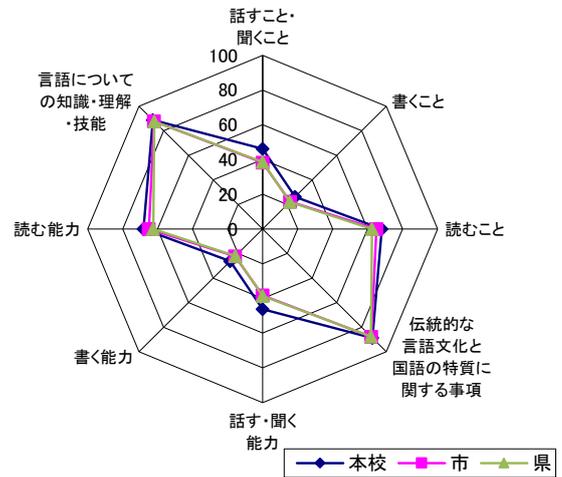
●「授業で自分の考えを文字にまとめて書くことが難しい」についての肯定的回答率は47.6%である。自分の考えをまとめ、書いて表現することを苦手と感じている児童が多いことが読み取れる。今後も、学習の中の様々な機会を通して、自分の考えを書く活動を多く取り入れていき、慣れることで苦手意識低下を図っていきたい。

●「家でのきまりや約束を守っている」については、市や県より11ポイント以上下回り、「学校のきまりを守っている」でも、市や県より7ポイント以上下回っており、規範意識についての課題が見られる。今後も、決まりを守る大切さを実感を伴って理解していけるように、学校生活の中で適時指導していきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	46.1	38.3	38.5
	書くこと	26.2	22.3	21.9
	読むこと	68.1	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	88.8	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	46.1	38.3	38.5
	書く能力	26.2	22.3	21.9
	読む能力	68.1	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	88.8	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

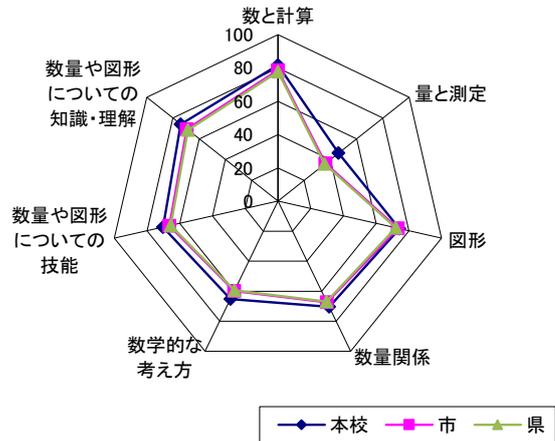
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○本校の正答率は、県の平均を7.6ポイント、市の平均を7.8ポイント上回っている。</p> <p>○根拠を示しながら筋道を立てて考えを話せるかを問う、記述式設問の本校の正答率は、県と市の平均を7ポイント以上上回っている。</p> <p>●根拠を示しながら筋道を立てて考えを話せるかを問う、記述式設問の本校の正答率は22.4%である。</p>	<p>・児童が互いに言葉を交わす機会を意識的に設定することで、話し聞くために必要な心構えを育んでいきたい。</p> <p>・児童が互いに話したり聞いたりする内容が、狭くなることにならないように環境設定をすると同時に、縦割り班活動等の異学年交流にも目を向け、話し合いの司会者的な立場の経験を積めるようにしていきたい。</p>
書くこと	<p>○本校の正答率は、県の平均を4.3ポイント、市の平均を3.9ポイント上回っている。</p> <p>○文章構成と内容の工夫への視点を問う設問の本校の正答率は、県と市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●与えられた情報を活用して記述で答える設問での無答率が県や市の平均をやや上回っている。</p>	<p>・学習内容を記録する際や振り返りを行う際など、教科に関わらず書く活動を継続して取り入れ、書くことに慣れるようにさせたい。</p> <p>・国語科や社会科、理科等において目的をもって文章を読み、得た情報を活用して自分の考えを書く活動を取り入れていきたい。</p>
読むこと	<p>○本校の正答率は、県の平均を5.6ポイント、市の平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○文学作品の内容理解を問う設問では、本校の正答率が県と市の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●文学作品の文章理解では、叙述に即して気持ちを読み取る設問で、本校の正答率が県と市の平均に5ポイント以上届かなかった。</p>	<p>・文学的文章を読む学習では、本文を丁寧に読むことの大切さを伝え続けるとともに、音読をする機会を設定していきたい。</p> <p>・学校図書館の活用を促したり、学級文庫の充実を図ったりして読書活動の充実を目指したい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○本校の正答率は88.8%であり、県や市の平均とほぼ同じだと言える。</p> <p>○漢字を読みでは、全ての設問で正答率が95%を超えている。また、慣用句に関する設問では87%であった。</p> <p>●修飾、被修飾の関係や漢字辞典の使い方での正答率が80%を下回っている。</p>	<p>・新出漢字の定着を図るための練習の機会を確実に設ける。また、日常的に使える漢字は使うように声をかけていきたい。</p> <p>・国語辞典や漢字辞典を日常的に活用できる環境づくりを進めていくことで、使い方の定着と語彙を増やせるようにしたい。</p> <p>・これまで学習してきた文法に関する知識を確認する場を設けたい。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.7	78.6	77.7
	量と測定	46.3	36.3	35.7
	図形	74.3	73.3	72.1
	数量関係	70.4	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	65.2	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	70.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	74.1	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

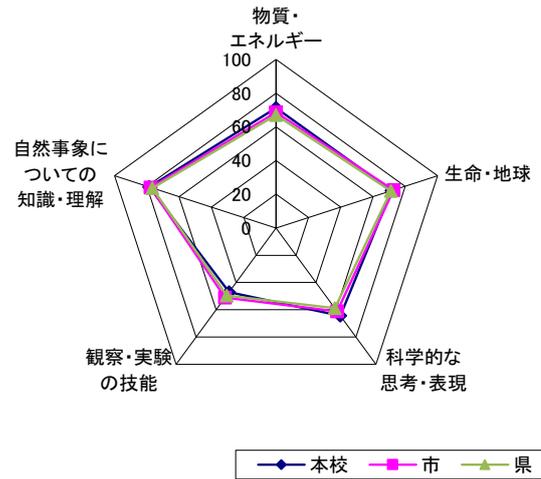
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本校の正答率は、県の平均を4ポイント、市の平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○帯分数を数直線に表す設問では、本校正答率が96.3%とおおむね満足な定着状態がうかがえる。</p> <p>●県や市の平均正答率とほぼ同じではあるが、「3位数×2位数」の計算では正答率が67.3%「帯分数-真分数」の計算では正答率が73.8%と、課題がある。</p>	<p>・補充プリントや計算ドリルを活用して、繰り返し計算処理の習熟を図りたい。</p> <p>・つまづきのある問題を適時取り上げ、繰り返しやり方を確認していきたい。</p>
量と測定	<p>○本校の正答率は、県及び市の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●図をもとに180°より大きな角度の求め方を説明する設問等、活用力を問う記述式の問題において県や市の平均正答率を5～12ポイント上回っているものの、正答率が4割に届いていない。</p>	<p>・具体的な操作を伴い工夫して考える問題では、出来る限り各自が考える時間を確保したい。また、周囲の仲間と伝え合う時間も設定し、筋道を立てて自分の考えを伝える経験を重ねられるようにしたい。</p>
図形	<p>○本校の正答率は、県の平均を5.6ポイント、市の平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○文学作品の内容理解を問う設問では、本校の正答率が県と市の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●文学作品の文章理解では、叙述に即して気持ちを読み取る設問で、本校の正答率が県と市の平均に5ポイント以上届かなかった。</p>	<p>・作図をする学習では、今後も個別支援を継続することで技能の定着を図りたい。</p> <p>・図形の学習では、切ったり貼ったり組み立てたりする操作活動を取り入れることで、実感を伴った知識の定着を目指したい。</p>
数量関係	<p>○本校の正答率は、県の平均を3.5ポイント、市の平均を3.0ポイント上回っている。</p> <p>○問題文の条件をもとに立式して考える設問の本校の正答率は、県の平均を12.8ポイント、市の平均を9.8ポイント上回っている。</p> <p>●数量変化の規則性を見つける設問では、正答率が86.0%ではあるが、県や市の平均をおよそ6ポイント下回っている。</p>	<p>・グラフや表をもとに規則性を見出す学習では、互いの考えを交わす機会を増やすことで、考え方の多様性に気付けるようにしたい。また、多様な考え方を比較することで、合理的な考え方に自ら目を向け考えることができる力を伸ばしたい。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.2	68.6	67.0
	生命・地球	71.5	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	64.4	61.2	58.8
	観察・実験の技能	47.0	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	78.5	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○本校の正答率は、県の平均を4.2ポイント、市の平均を2.6ポイント上回っている。</p> <p>○閉じ込めた空気を圧す際の体積と手ごたえの変化や、ポットを押した時に湯が出る理由を問う質問の正答率は、県や市の平均を2ポイント以上上回っている。</p> <p>●金属、水、空気と温度についての設問では、県や市の平均を10ポイント以上上回っているものもあるが、8ポイント近く下回っているものもあり、課題が見られる。</p> <p>●光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する設問では、県や市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・各自が実験の結果から得られる学習内容を正しく理解できるように、実験を行った際には結果や考察をノートに書き込む活動を取り入れ、全員で確認をしながら練り上げていく活動を取り入れていきたい。</p> <p>・自主学習等を通して、普段の生活の中で様々な事象に対して、興味・関心を持てるように今後も継続して支援していきたい。また、抱いた疑問については、自主的に追及していけるよう支援をし、身の回りの事象について考える姿勢が身に付くようにしたい。</p>
生命・地球	<p>○本校の正答率は、県の平均を6.2ポイント、市の平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○季節と生物の関係についての設問では、全ての設問で、県と市の平均を上回っている。</p> <p>●月と星に関する設問では、半数の設問で県と市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。</p> <p>●月と星に関する設問では、全ての設問で無回答率が5ポイントを超えており、課題が見られる。</p>	<p>・授業で得た知識を、授業の中だけで完結させるのではなく、自主学習を奨励することで、身の回りの事象や抱いた疑問と関連付けて考えるよう支援し、学習内容の定着を図っていきたい。</p> <p>・学習して得た知識と、身の回りの事象を関連付けて解説するような学習活動を取り入れるようにしていきたい。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答率は82.2%と良好な状況であると言える。この結果は、県の平均を20.6ポイント、市の平均を18.5ポイント上回っている。本校では児童が自らの課題に合わせてめあてをもち取り組む自主学習を奨励している。また、「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」の肯定回答率は県の平均を9.5ポイント、市の平均を8.3ポイント上回っている。課題解決を自分の決めた方策で取り組む経験は、児童の自己有用感ともつながり、自ら成長しようとする姿勢を育むことにつながっていると推察できる。今後も児童のよりよく変容しようとする意欲を支えられるような学習課題の設定を進めていきたい。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答率は県の平均を10.7ポイント、市の平均を5.8ポイント上回っている。また、「家の人と学習について話をしている」では、県の平均を12.6ポイント、市の平均を8.2ポイント上回っている。家庭での児童を話題とした豊かなコミュニケーションが児童の学習意欲を支えていることが推察される。今後も、学年便り等の各種便りにて学校での児童の姿を発信し、家庭でのコミュニケーションの促進に努めたい。

●「時間を上手に使うことを、心がけている」の肯定的回答率は74.8%と県の平均を4.0ポイント、市の平均を5.4ポイント下回っている。高学年生となり学習においても生活においても取り組むべき内容の難易度が上がってきているといえる。上手な時間の使い方は、今後児童が自らの課題解決に向けて取り組む際大切になる力だろう。学校生活の中で、日課を守ることで、少しだけ先を考えて行動することなど、声かけを続けていきたい。

●「学習に対して、自分から進んでとくんでいる」の肯定的回答率は76.6%で県や市の平均とほぼ同程度であるが、個人差が見られる。課題が見られる児童に対して、どうすれば取り組めるようになるのかを個別に声をかけ児童の中で達成感を得ることができるよう支援していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答率は43.9%で県の平均を5.2ポイント、市の平均を6.1ポイント下回っている。児童の中に苦手意識が高い項目だといえる。今後、児童が人前で話す機会を意図的に増やすことで、話すことに慣れるとともに、共感的に耳を傾けることができるような学級経営に努めることで、発表する児童の不安を少しでも減らしていきたい。

宇都宮市立今泉小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の学習に継続性を生み出すことで学習内容の獲得、深化、統合を促し、確かな力を育む。	・授業における【目標(めあて・ねらい)】の提示と書く活動を伴う【振り返り】の実施。 ・各自が設定した【目標(めあて・ねらい)】に従った自主学習への取り組みの支援。	「振り返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」への肯定的回答率と「家で自分で計画を立てて勉強している」、「学習に自分から進んで取り組んでいる」との相関性が読み取れる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「書く」領域での最高無解答率は、4年生19.0%、5年生は25.2%であった。 ・国語での叙述に即した読み取りに課題があった。 ・算数の四則計算の習熟に個人差が見られた。 ・単位の量感や自然現象の実感を伴う体験的理解の更なる充実が課題である。	・学習活動と取り組み方の共通化と個別化を視点に、学業指導に取り組む。	・授業で扱うノートに「まとめ」や「振り返り」を記述することを意図的に行う。 ・テスト等を直して身に付ける学習やドリル学習を継続的に行うとともに、内容は児童により個別化できるようにする。 ・具体的な操作を伴う教材や器具等の活用について共通理解する。